

令和7年度実施
(2025年度実施)

雇用主アンケート
調査報告書

令和7年(2025年)12月
別府大学短期大学部 就職委員会

はじめに

本学の雇用主アンケートは、在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及びディプロマ・ポリシーに照らして教育の成果や効果を検証し、教育力の向上や改善に資することを目的として、卒業生の雇用先にご協力をお願いして実施しています。

また、同時期に実施している卒業生アンケートについても同様の目的で、卒業生の協力のもと、本学の教育内容の改善に活用させていただいております。

この雇用主アンケートは、短期大学部を卒業した全ての卒業生の雇用先にアンケートの協力依頼を行い、本年度も雇用先から多くの貴重なご意見をいただきました。

この場を借りて、お忙しいなかアンケート調査にご協力いただいた本学卒業生の雇用先の方々に心よりお礼申し上げます。

本委員会で作成した「雇用主アンケート調査報告書」が、学生教育においてディプロマ・ポリシーである、①教養(人間性の形成に資する幅広い知識、技能)、②専門力(専門に関する基本的な知識、技能)、③汎用力(社会で活躍できる汎用性のある能力)の修得に活用され、本学の教育の質向上の一助になることを心から願っております。

令和7年(2025年)12月

別府大学短期大学部 就職委員会

目次

卒業生・雇用主アンケート調査 実施要領	1
雇用主アンケート調査結果	
(1)食物栄養科調査結果	2
(2)初等教育科調査結果	10
「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価実施要領	20
別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー	21
食物栄養科「雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価	23
1. 教養(人間性の形成に資する幅広い知識、技能)	24
2. 専門力(専門に関する基本的な知識、技能)	24
3. 汎用力(社会で活躍できる汎用性のある能力)	24
初等教育科「雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価	27
1. 教養(人間性の形成に資する幅広い知識・技能)	27
2. 専門力(専門に関する基本的な知識・技能及び態度)	27
3. 汎用力(社会で活用できる汎用性のある能力)	28

別府大学短期大学部 卒業生・雇用主アンケート実施要領

(目的)

第 1 条 学生の卒業後の進路・就職状況等から、在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及びディプロマ・ポリシーに照らして教育の成果や効果を検証し、教育力の向上や改善に資することを目的とする。

(所轄部署)

第 2 条 当該調査に関する所轄部署は、学生事務部(担当部:キャリア支援課)とし、関連部署(FD 委員会および就職委員会)と連携して行う。

(調査対象)

第 3 条 調査対象は以下の 2 つとする。
(1) 本学を卒業した過年度の卒業生
(2) 卒業生の就職先、学生が就職活動を行っている企業・団体等

(調査方法)

第 4 条 調査方法は以下の手順で行う。
(1) キャリア支援課で送付先を抽出する。
(2) 質問項目は、FD 委員会および就職委員会でディプロマ・ポリシーを反映させ検討・作成する。
(3) アンケート実施期間は、第 2 四半期から第 4 四半期の一定期間(10 日間程度)を定め、対象者に送付する。
(4) 送付方法は、郵送または対象者に届く効果的な方法にて送付する。
(5) 回収方法は、インターネットやファックス等を用い、対象者が回答しやすい方法にて行う。

(集計・分析)

第 5 条 集計及び分析は下記の部署が担当し、企画運営会議へ報告する。
(1) 卒業生・雇用主アンケートの集計は、キャリア支援課が担当する。
(2) 卒業生アンケートの分析および報告書作成は、FD 委員会が担当する。
(3) 雇用主アンケートの分析および報告書作成は、就職委員会が担当する。

(公表)

第 6 条 企画運営会議は報告に基づき、教授会の儀を経て、年度内に大学ホームページに掲載公表する。

(その他)

第 7 条 調査方法や質問事項等については、本調査の目的を逸脱しない範囲で修正、変更等を行う。

以上

附 則

この要領は、令和 3 年 4 月 21 日から施行し、令和 2 年 8 月 1 日から適用する。

雇用主アンケート

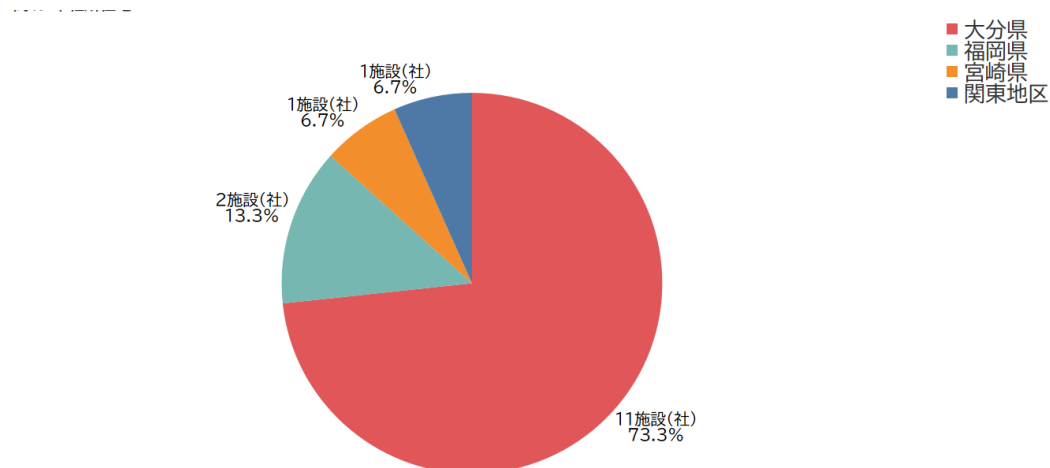
調査方法 アンケート協力依頼文書を郵送し、WEBによる回答を集計

調査期間 アンケート協力依頼文書発送日(令和7年7月24日)から同年8月18日回答締め切り

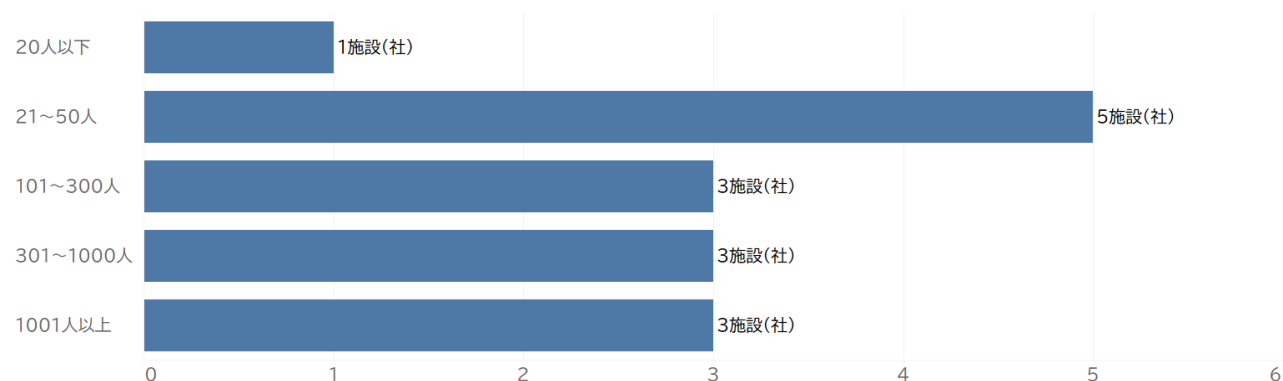
調査対象 各科とも令和6年度卒業生の就職先及び就職活動の対象先
食物栄養科 25 施設(社) 回収率 60.0%
初等教育科 124 施設(社) 回収率 51.6%

食物栄養科【送付:25 施設(社) 回収:15 施設(社) 回収率:60.0 %】

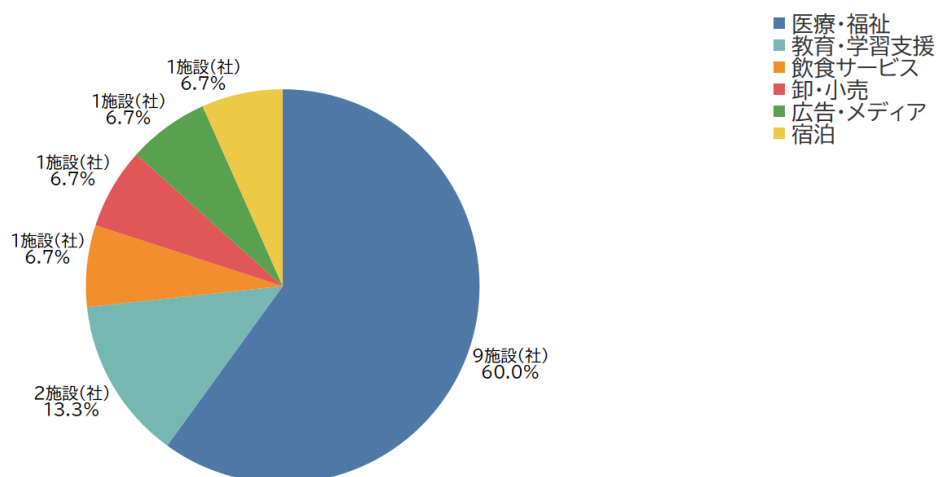
問1:本社所在地(15 件の回答)



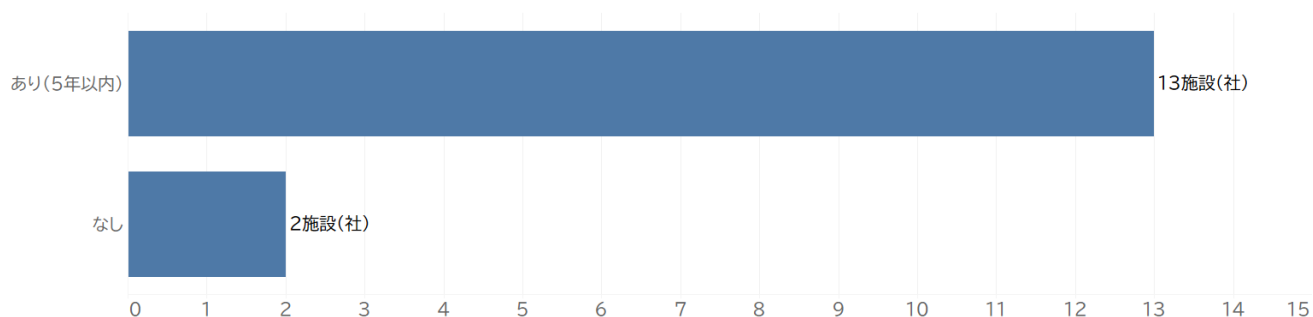
問2:従業員(職員)規模(15 件の回答)



問 3:主たる業種(15 件の回答)



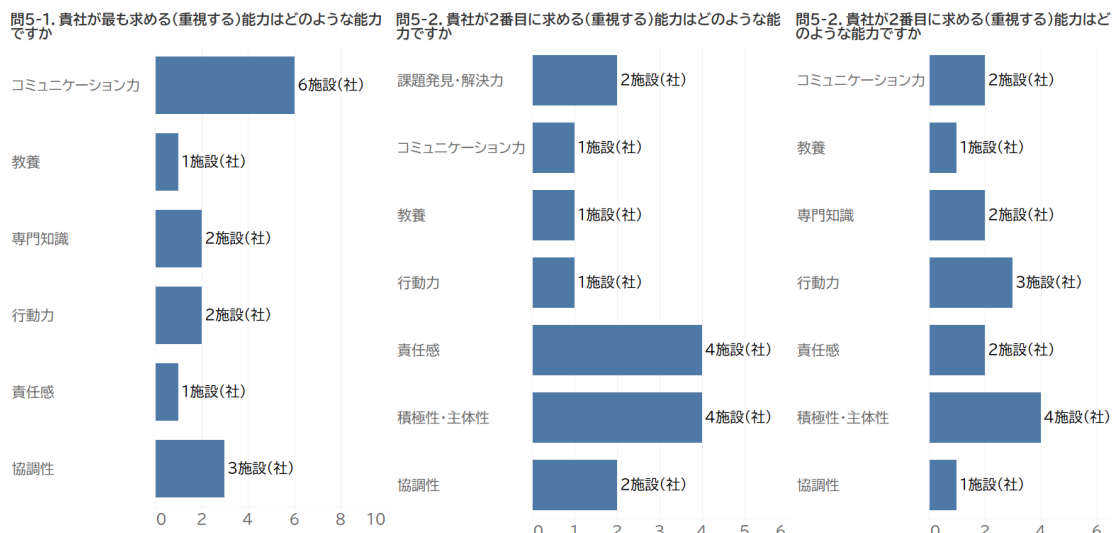
問 4:本学からの採用実績(15 件の回答)



問 5-1: 貴社が最も求める(重視する)能力はどのような能力ですか(15 件の回答)

問 5-2. 貴社が2番目に求める(重視する)能力はどのような能力ですか(15 件の回答)

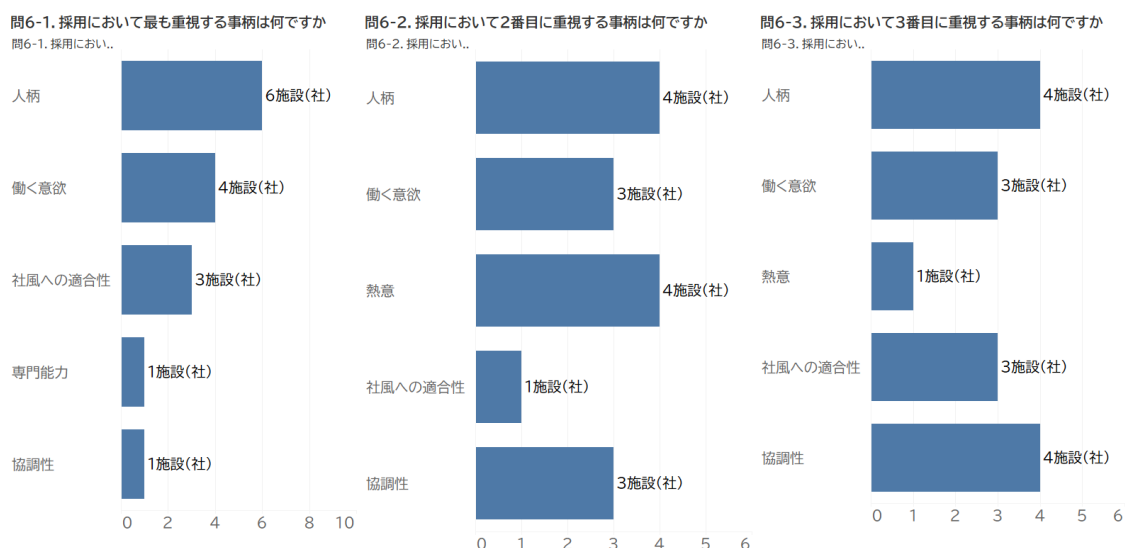
問 5-3. 貴社が3番目に求める(重視する)能力はどのような能力ですか(15 件の回答)



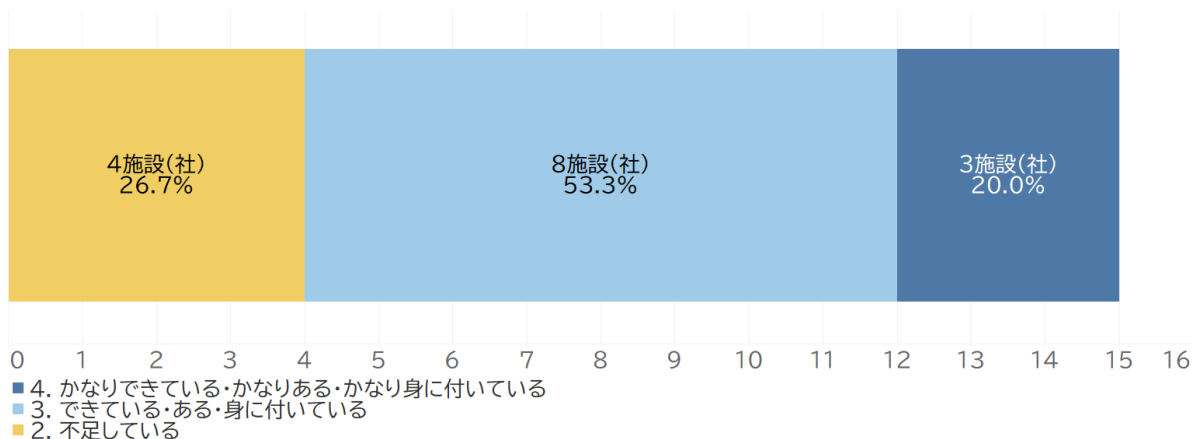
問 6-1. 採用において最も重視する事柄は何ですか(15 件の回答)

問 6-2. 採用において2番目に重視する事柄は何ですか(15 件の回答)

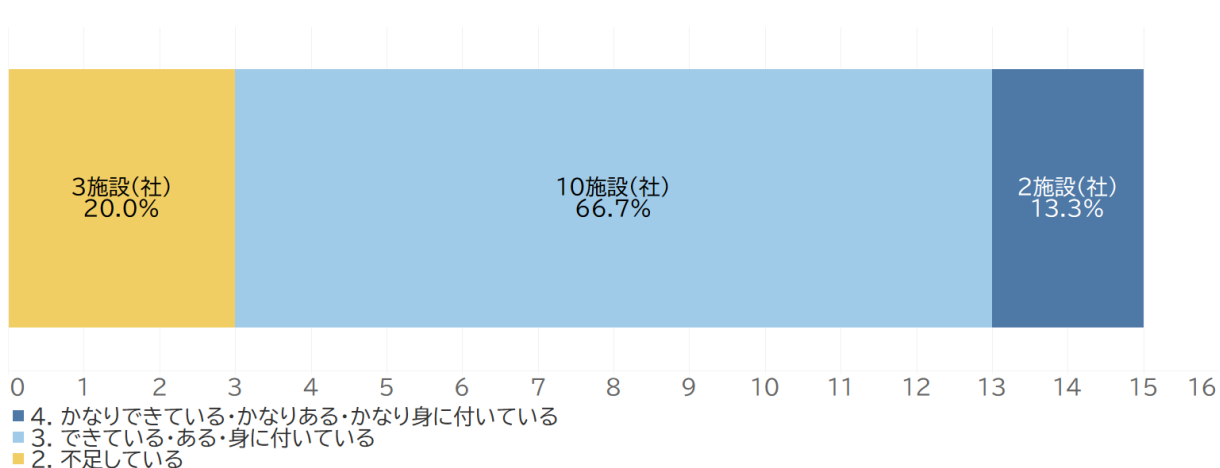
問 6-3. 採用において3番目に重視する事柄は何ですか(15 件の回答)



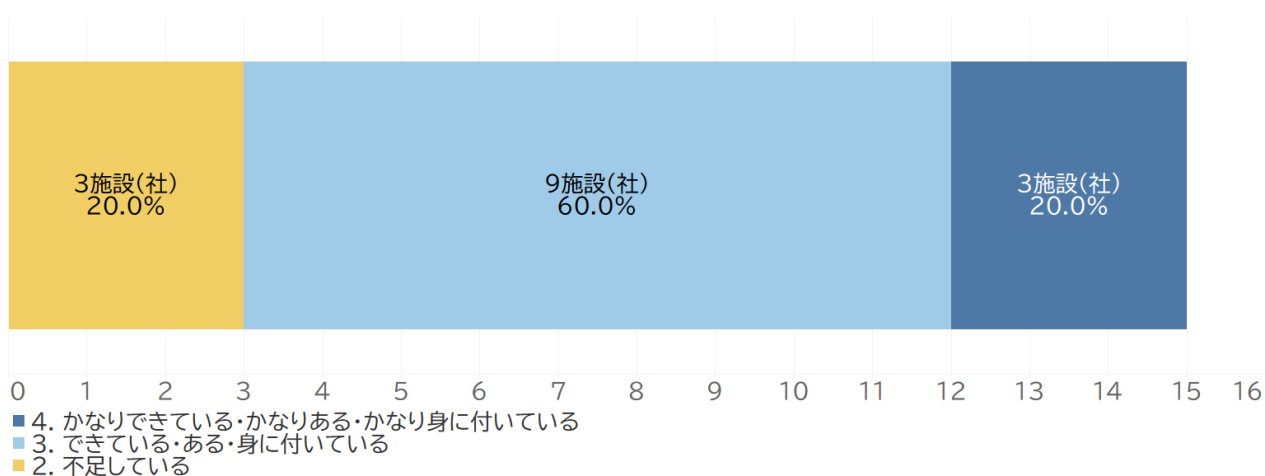
問7. 社会人として必要な常識・幅広い知識教養を身につけているか(15 件の回答)



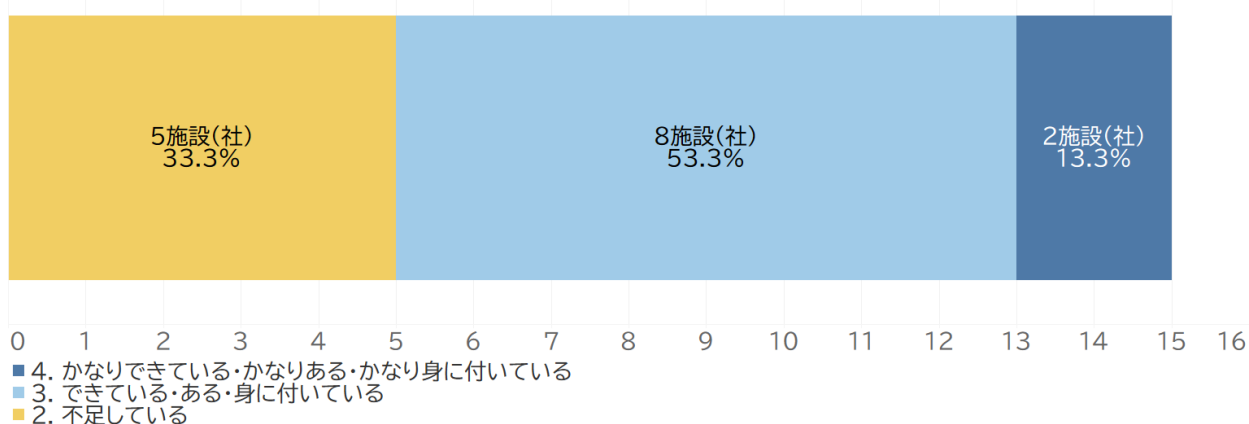
問8. 大学の専門分野で身につけた基本的な知識・技能を活かすことができるか(15 件の回答)



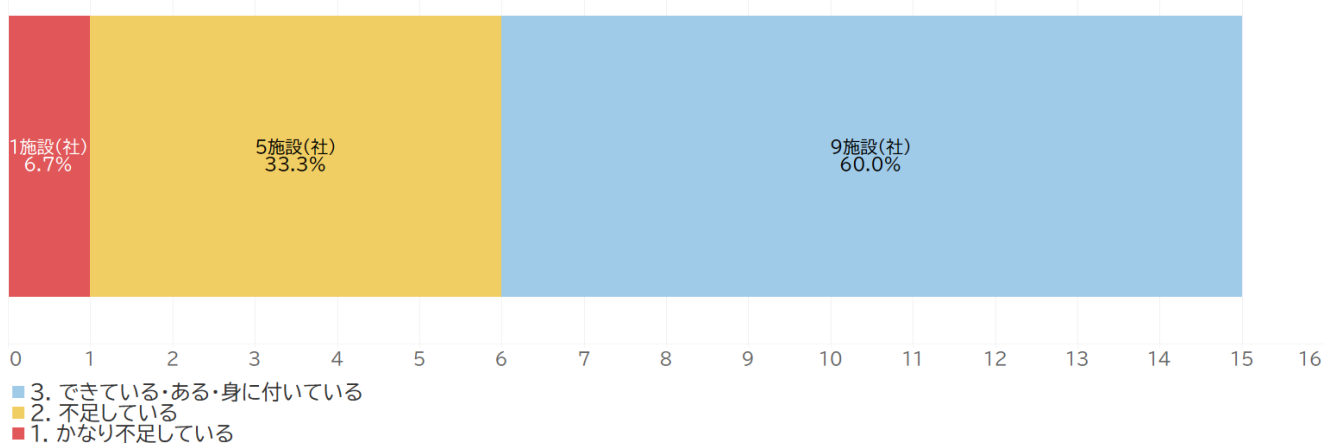
問9. 論理的に考え分析する能力はあるか(15 件の回答)



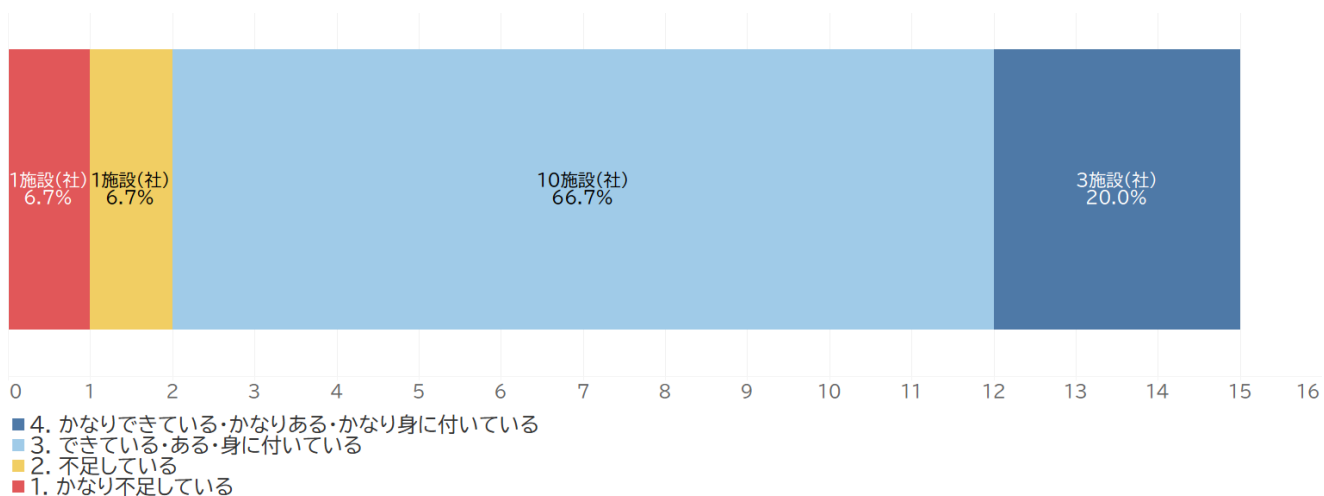
問 10. 主体的に課題を発見し、解決に取り組む能力はあるか(15 件の回答)



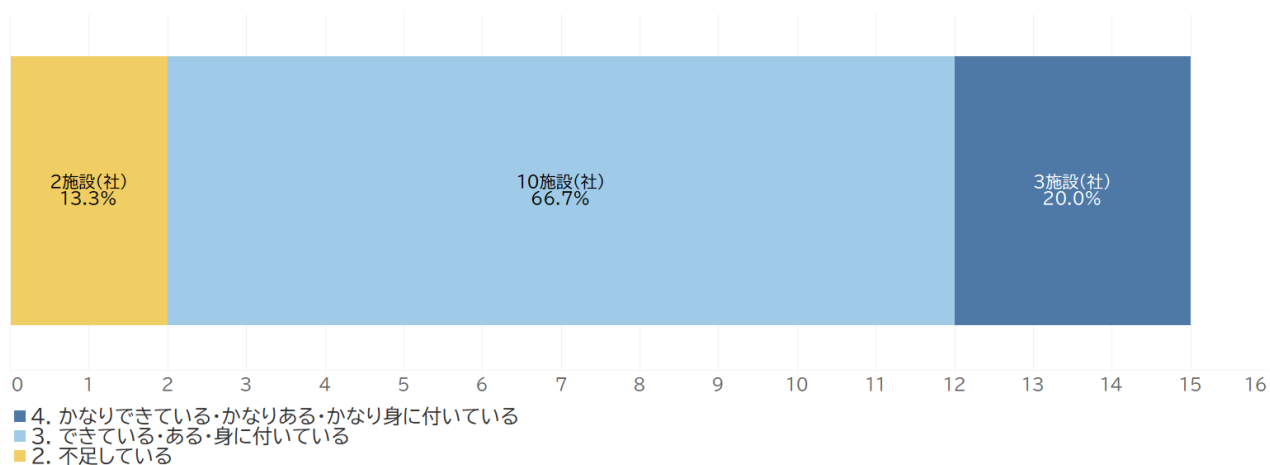
問 11. 組織での活動においてリーダーシップを発揮することができるか(15 件の回答)



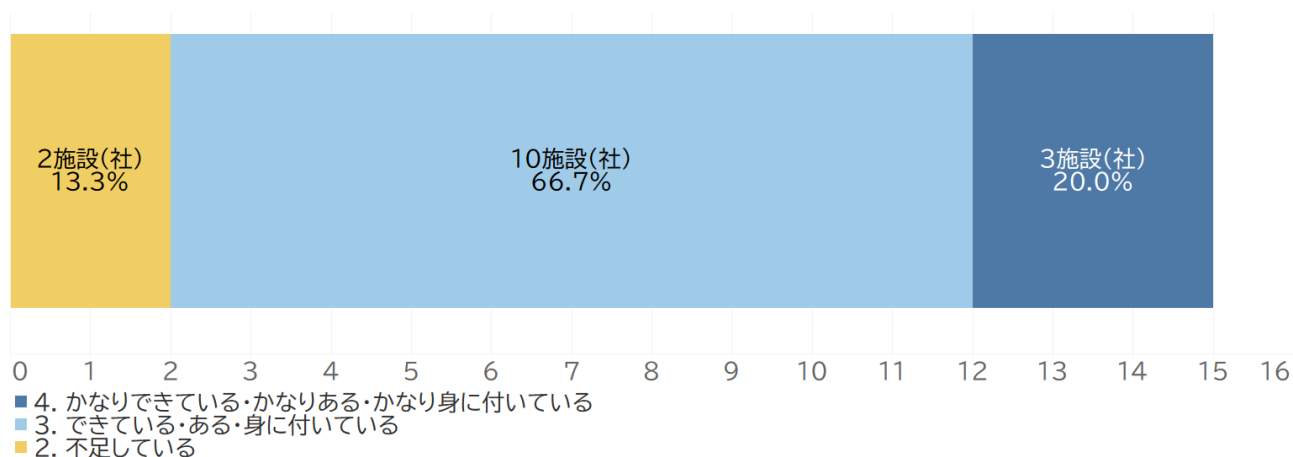
問 12. 組織において、他社や他部門と協調・協力して仕事を進めることができるか(15 件の回答)



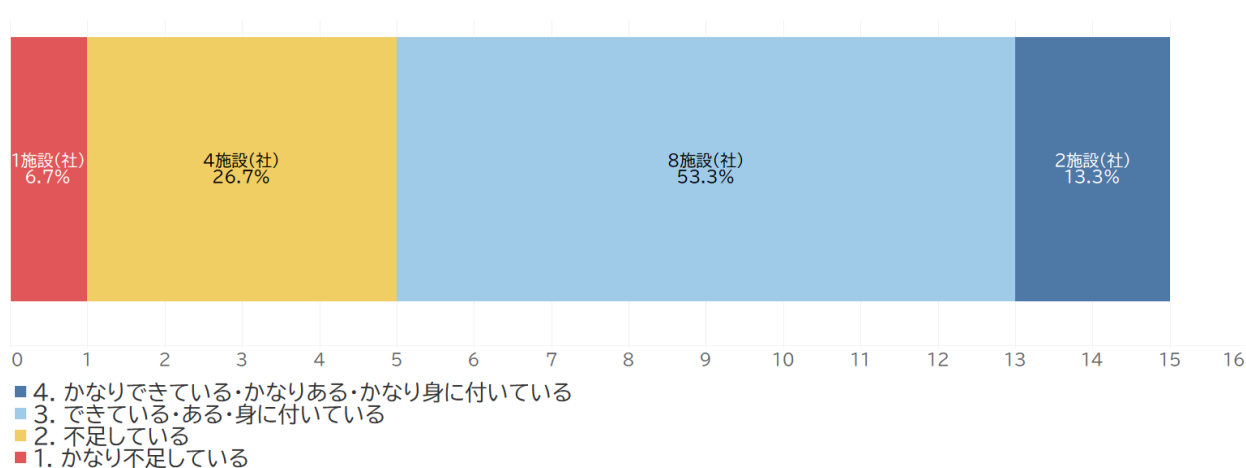
問 13. 場面にふさわしい言葉遣いやマナーを身につけているか(15 件の回答)



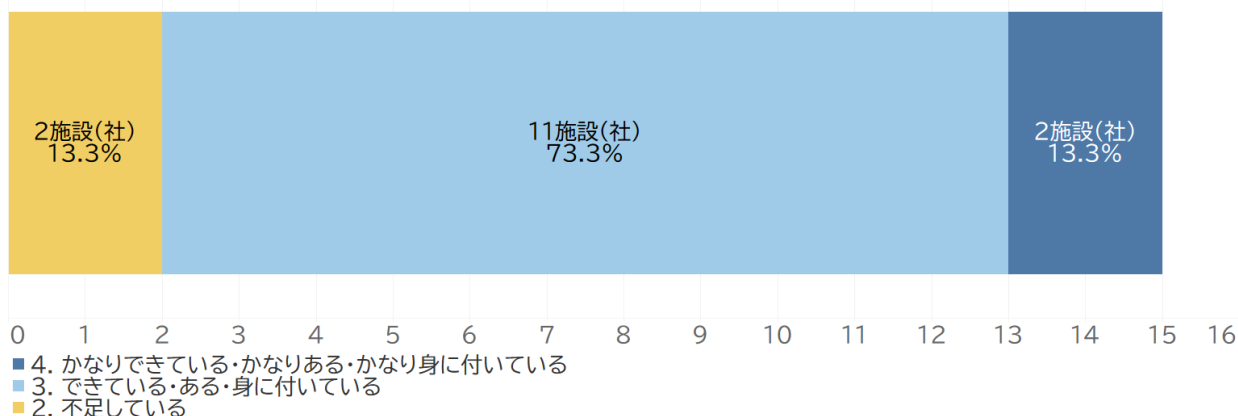
問 14. 自分の考えを的確に表現できるコミュニケーション力を身につけているか(15 件の回答)



問 15. 社会の動向や問題に関心を持ち、必要な情報を収集することができるか(15 件の回答)

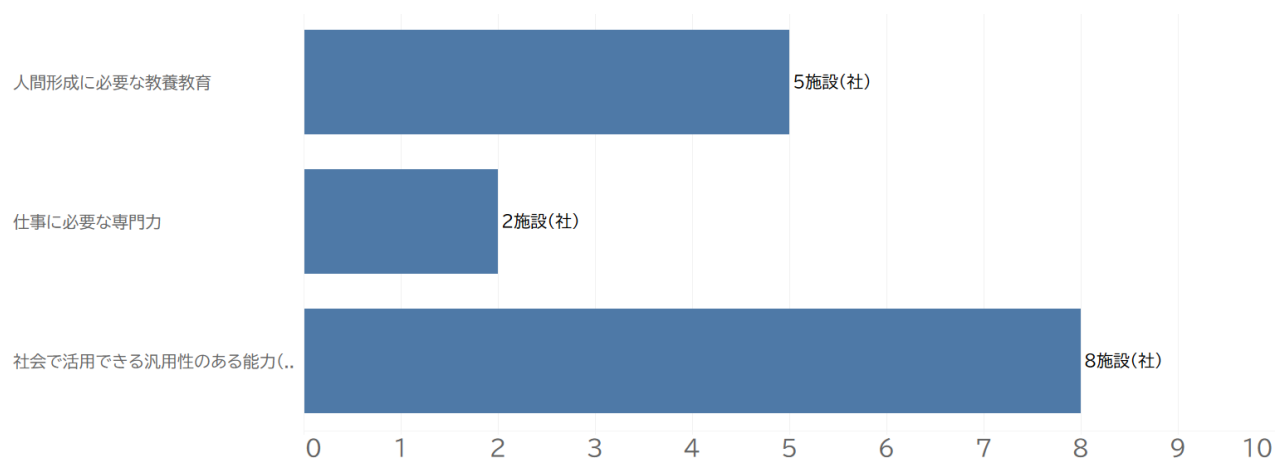


問16. 基本的な情報処理能力(パソコンスキル等)を身につけているか(15 件の回答)

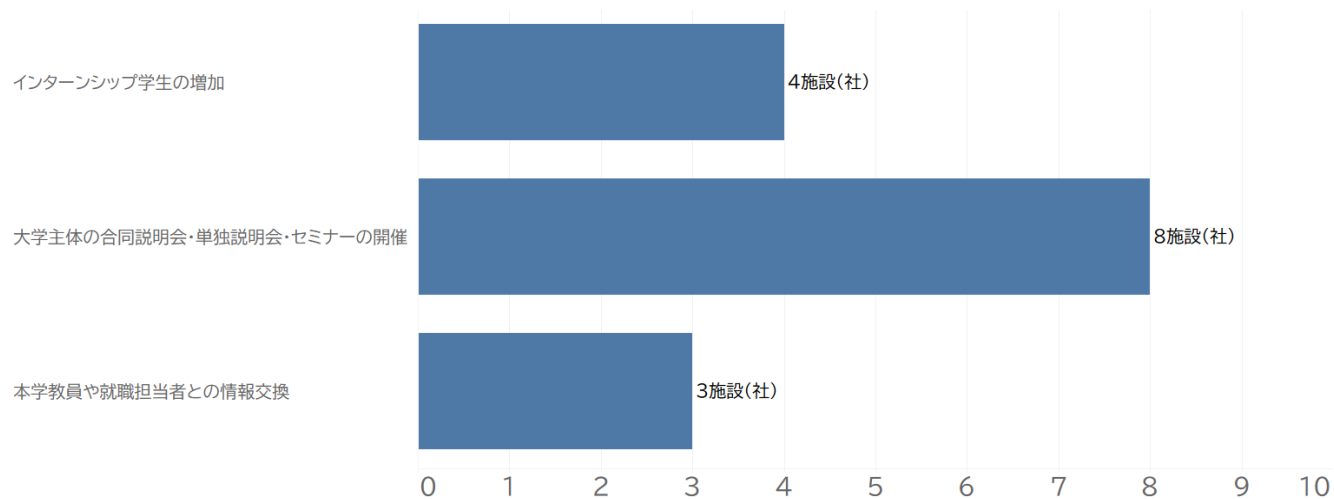


《本学に求めるもの、期待するものについて》

問 17. 企業として本学で身につけてもらいたい能力は何ですか(1 つだけ)(15 件の回答)



問 18. 今後、以下の事項について貴社が希望することはどんなことですか(1 つだけ)(15 件の回答)

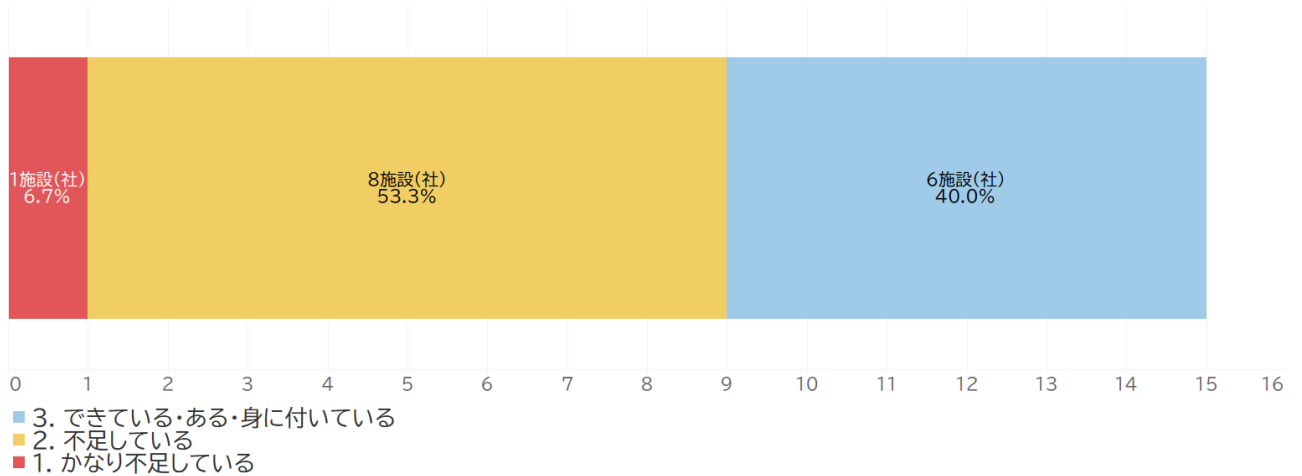


《その他》

問 19.AI やビッグデータなどを活用する能力について(15 件の回答)

本学では、文部科学省の認定を受けたプログラムを全学生に提供しています。データサイエンス・AI 活用能力は身につけていますか

問19. Aiやビッグデータなどを活用する能力について
本学では、文部科学省の認定を受けたプログラムを全学生に提供しています。データサイエンス・Ai活用能力は身につけていますか

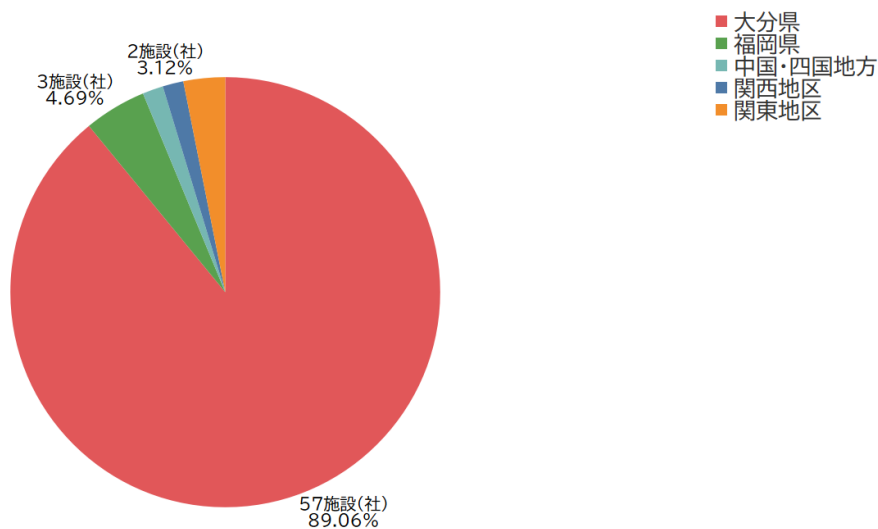


問 20.その他、自由意見を記載をお願いします

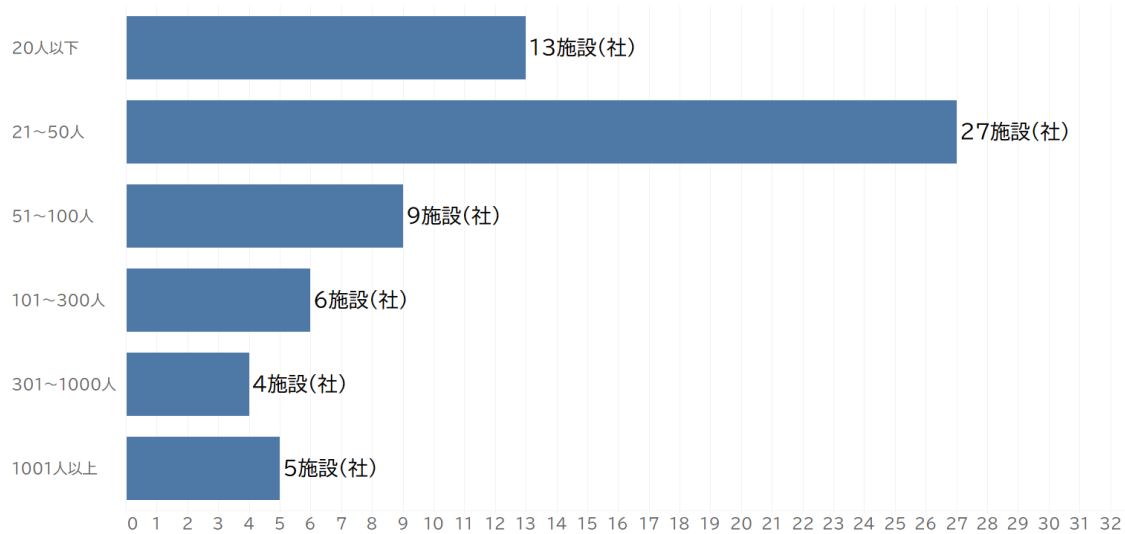
- 平均で入力しております。卒業生の個人差で身につけている方もいらっしゃいます。今後、もよろしくお願ひ申し上げます。

初等教育科【送付：124施設(社) 回答：64施設(社) 回答率51.6%】

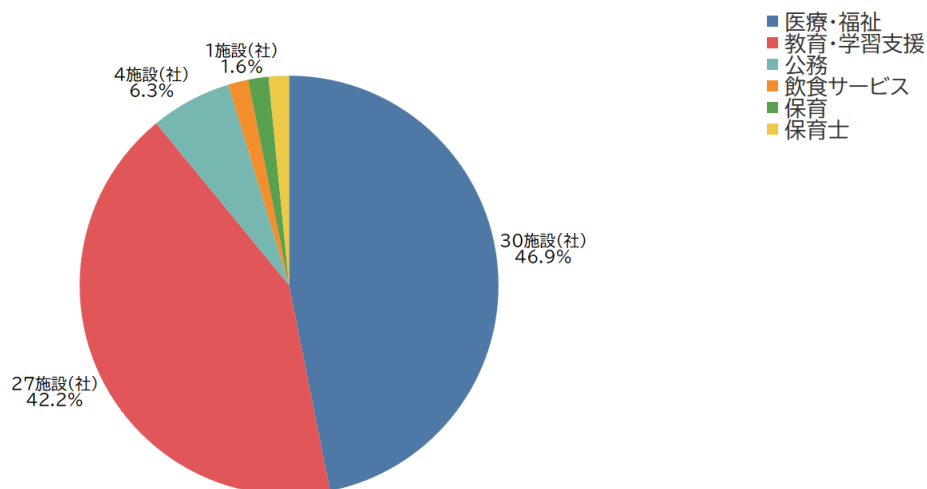
問1：本社所在地(64件の回答)



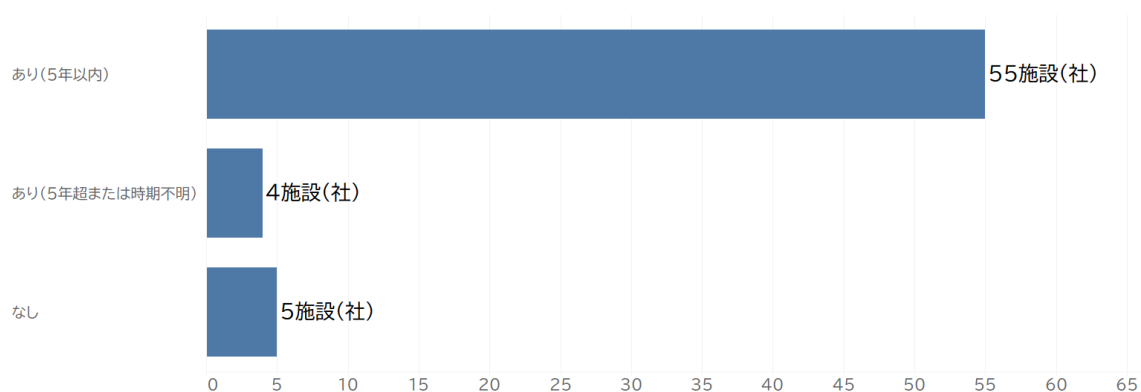
問2：従業員(職員)規模(64件の回答)



問 3:主たる業種(64 件の回答)



問 4:本学からの採用実績(64 件の回答)

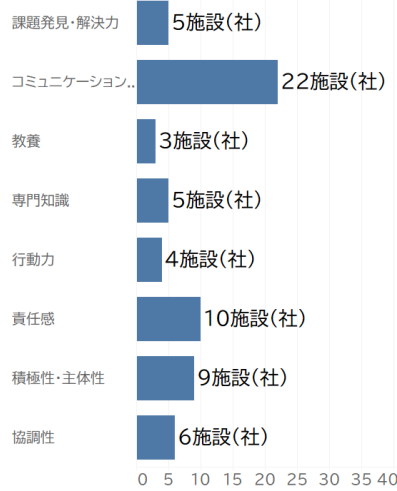


問 5-1:貴社が最も求める(重視する)能力はどのような能力ですか(64 件の回答)

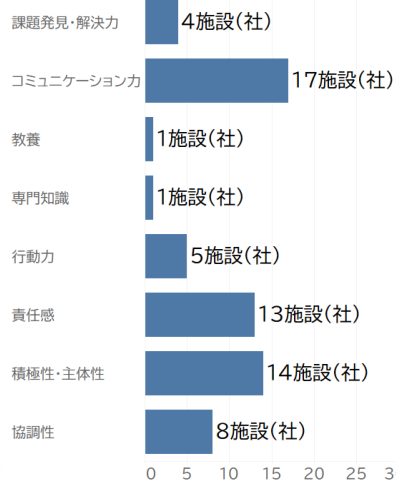
問 5-2:貴社が 2 番目に求める(重視する)能力はどのような能力ですか(63 件の回答)

問 5-3:貴社が 3 番目に求める(重視する)能力はどのような能力ですか(64 件の回答)

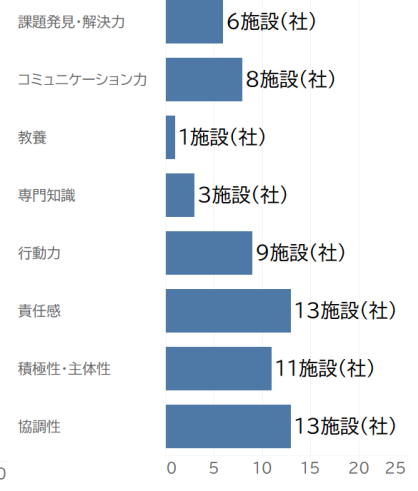
問5-1. 貴社が最も求める(重視する)能力はどのような能力ですか



問5-2. 貴社が2番目に求める(重視する)能力はどのような能力ですか



問5-3. 貴社が3番目に求める(重視する)能力はどのような能力ですか

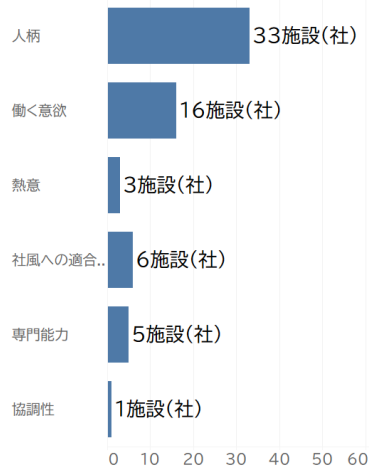


問 6-1:採用において最も重視する事柄は何ですか(64 件の回答)

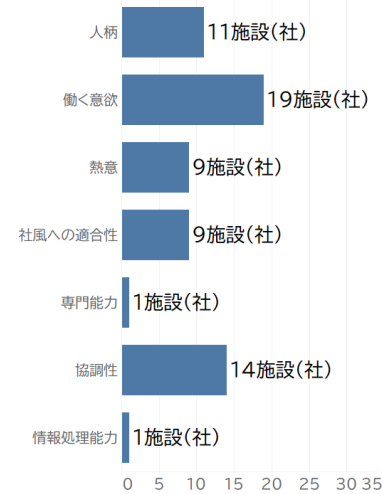
問 6-2:採用において 2 番目に重視する事柄は何ですか(64 件の回答)

問 6-3:採用において 3 番目に重視する事柄は何ですか(64 件の回答)

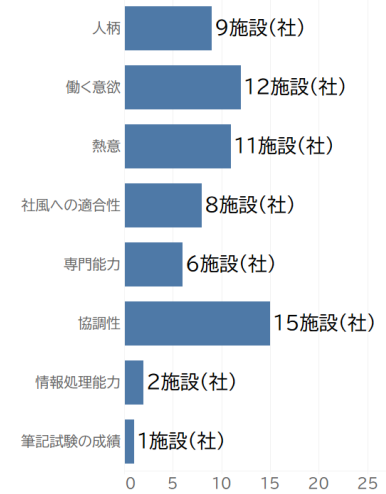
問6-1. 採用において最も重視する事柄は何ですか



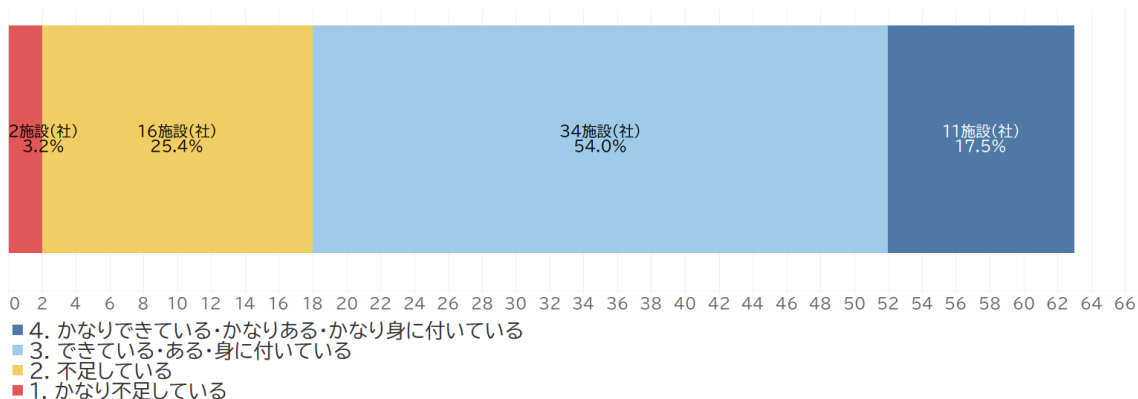
問6-2. 採用において2番目に重視する事柄は何ですか



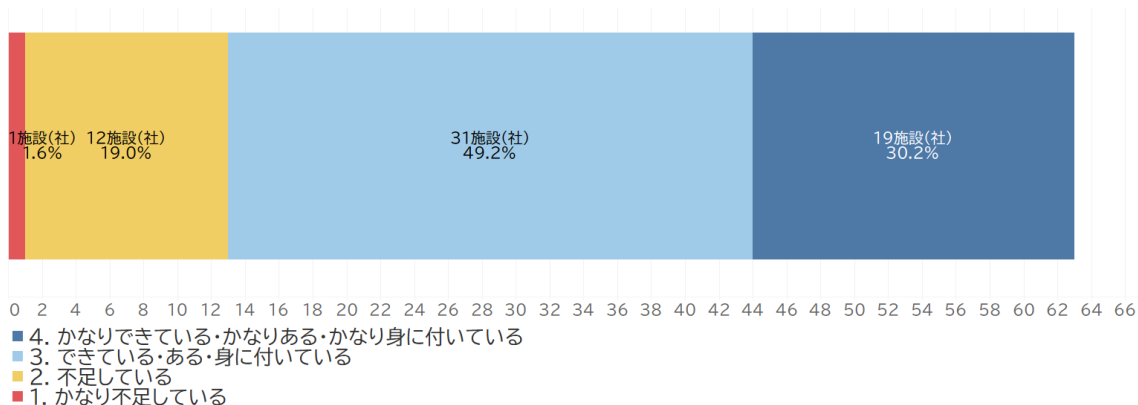
問6-3. 採用において3番目に重視する事柄は何ですか



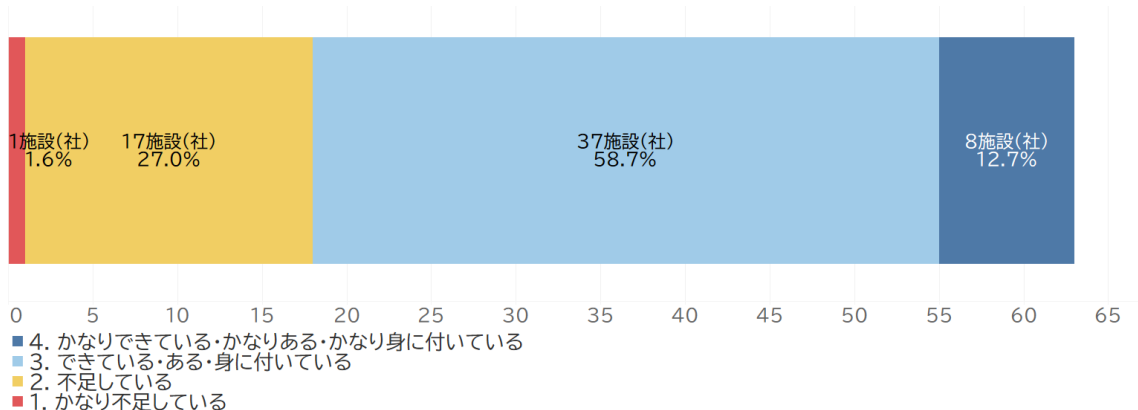
問7. 社会人として必要な常識・幅広い知識教養を身につけているか(63件の回答)



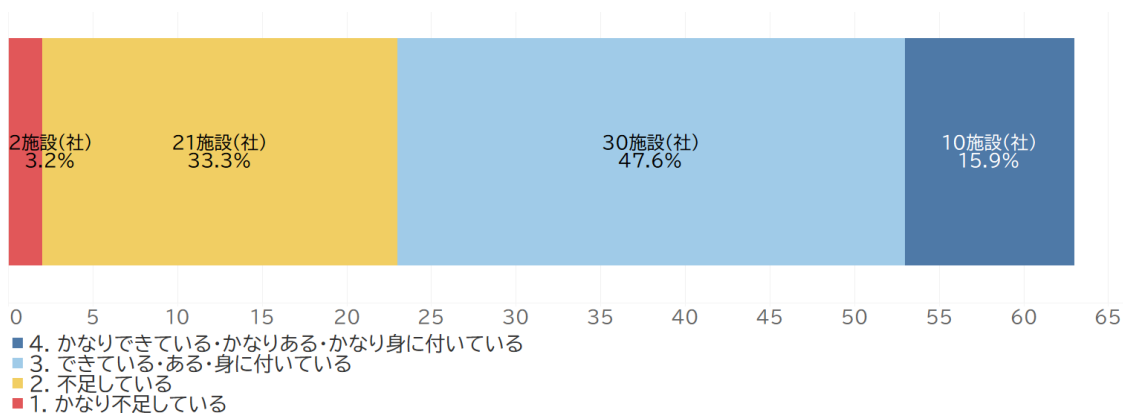
問8. 大学の専門分野で身につけた基本的な知識・技能を活かすことができるか(63件の回答)



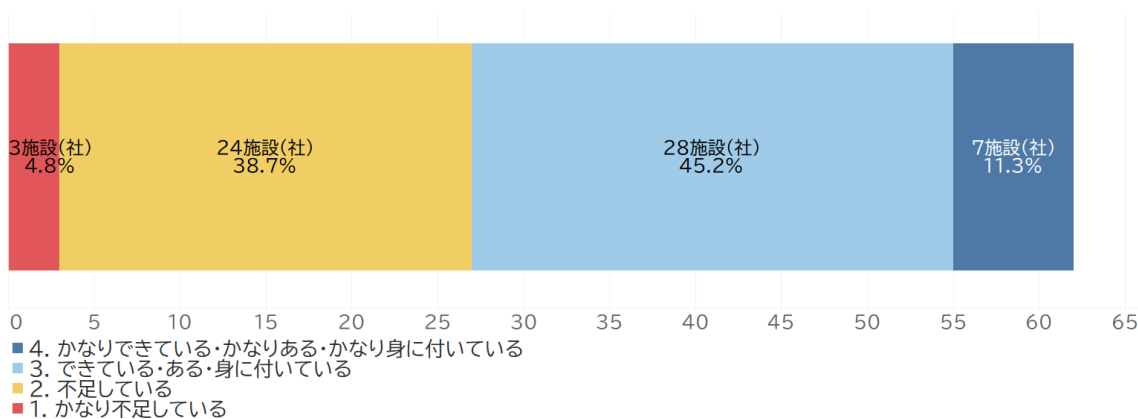
問9. 論理的に考え分析する能力はあるか(63件の回答)



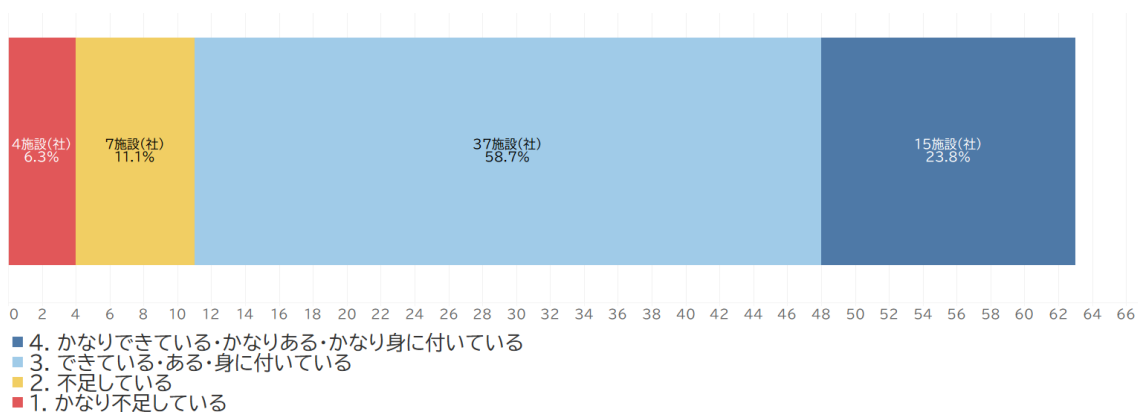
問 10. 主体的に課題を発見し、解決に取り組む能力はあるか(63 件の回答)



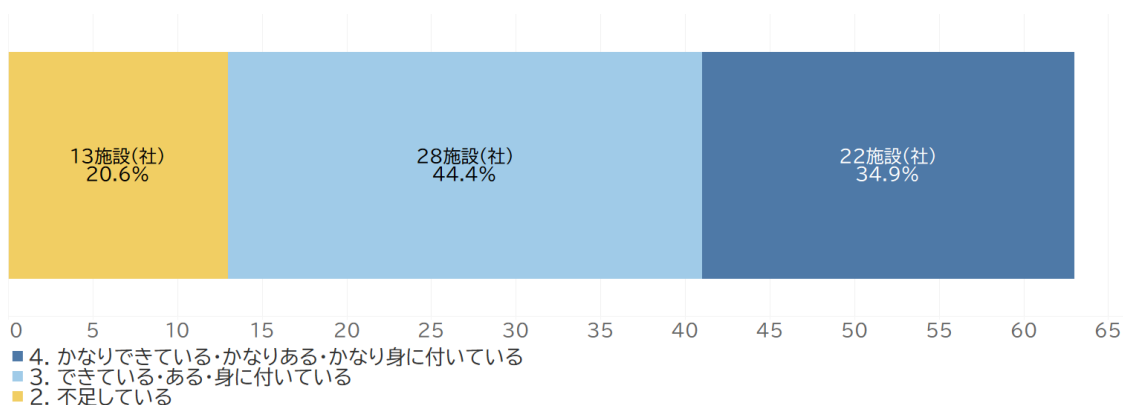
問 11. 組織での活動においてリーダーシップを発揮することができるか(62 件の回答)



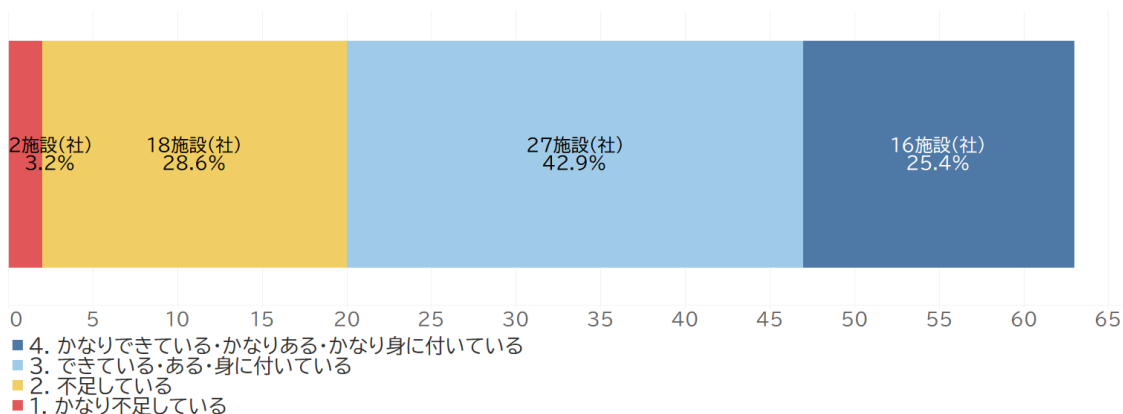
問 12. 組織において、他社や他部門と協調・協力して仕事を進めることができるか(63 件の回答)



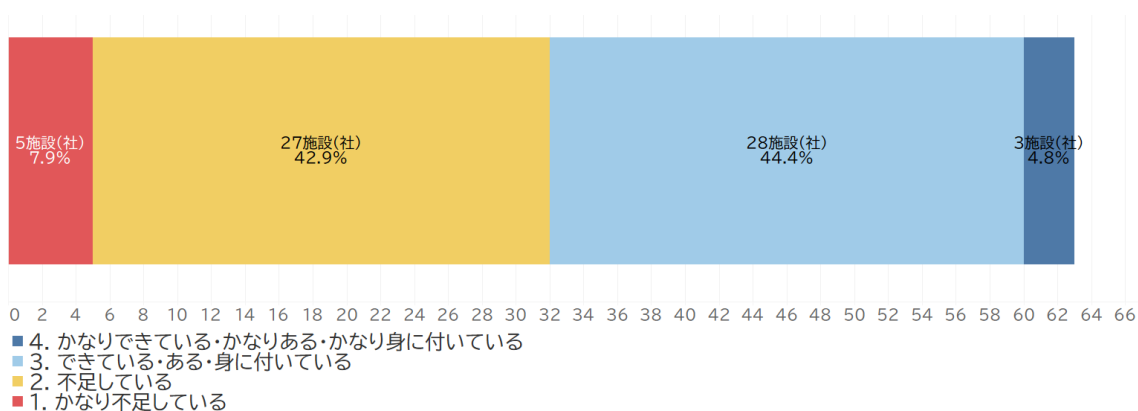
問 13. 場面にふさわしい言葉遣いやマナーを身につけているか(63 件の回答)



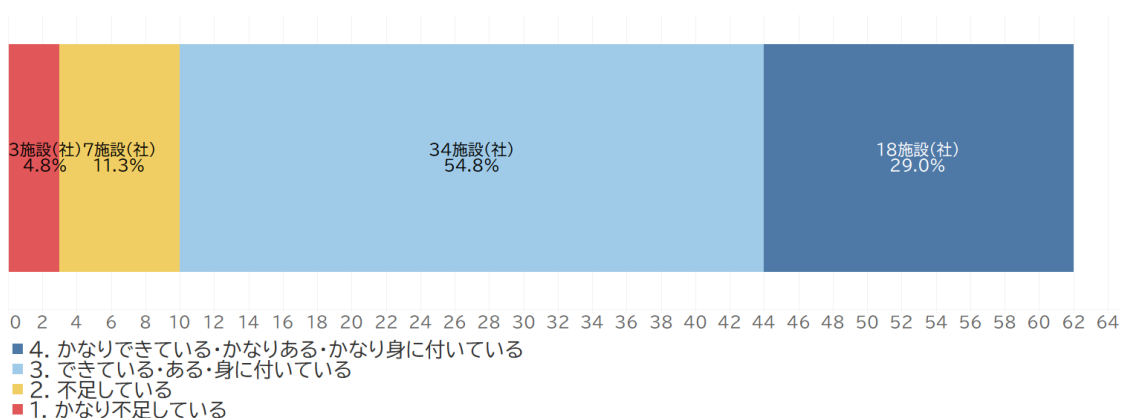
問 14. 自分の考えを的確に表現できるコミュニケーション力を身につけているか(63 件の回答)



問 15. 社会の動向や問題に関心を持ち、必要な情報を収集することができるか(63 件の回答)

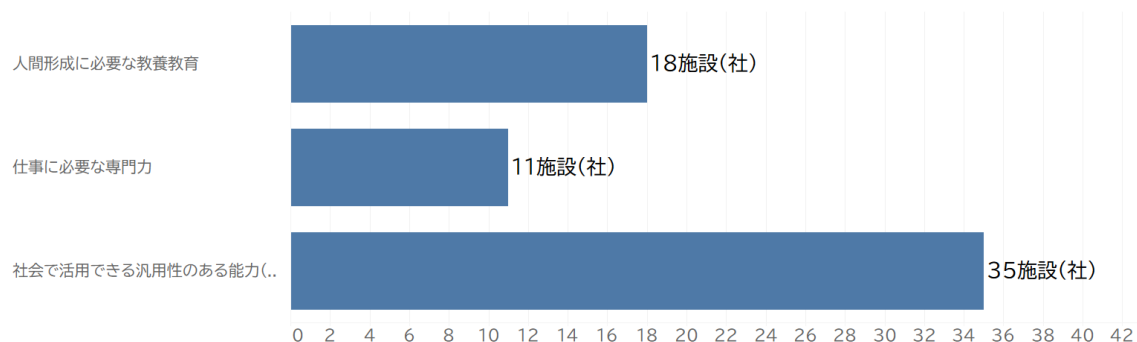


問 16. 基本的な情報処理能力(パソコンスキル等)を身につけているか(62 件の回答)

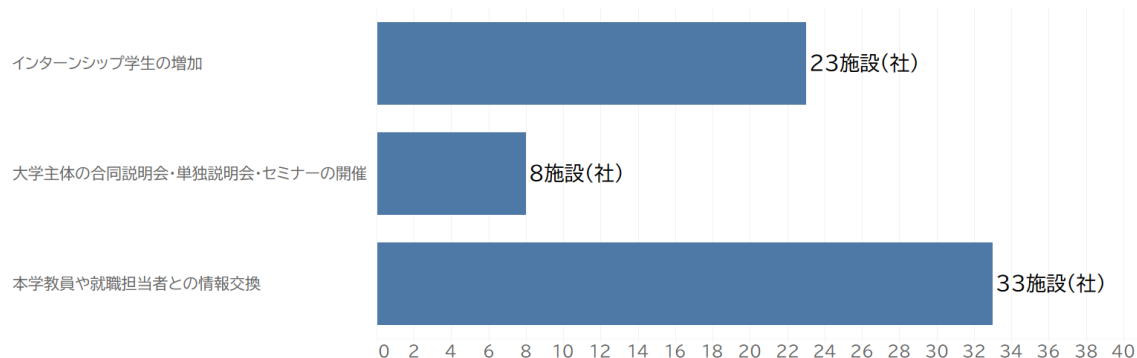


《本学に求めるもの、期待するものについて》

問 17. 企業として本学で身につけてもらいたい能力は何ですか(1 つだけ)(64 件の回答)



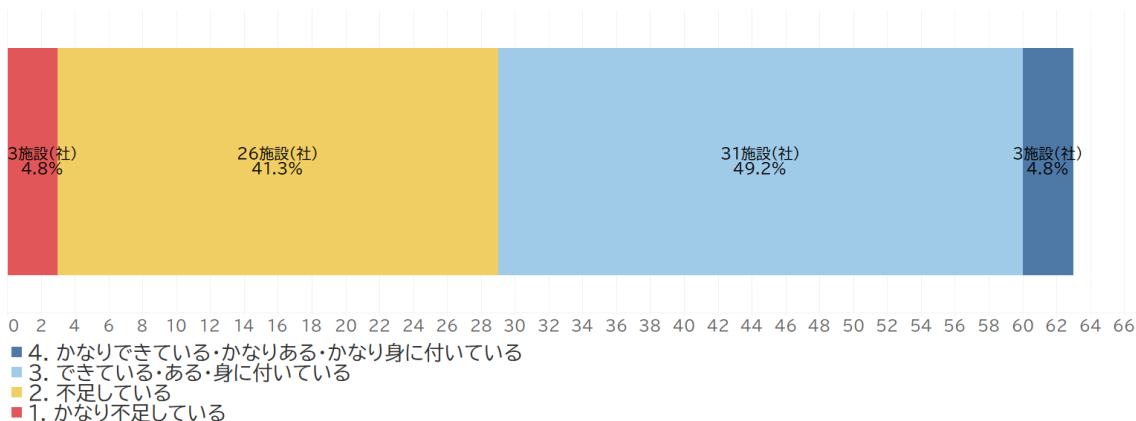
問 18. 今後、以下の事項について貴社が希望することはどんなことですか(1 つだけ)(64 件の回答)



《その他》

問 19.AI やビックデータなどを活用する能力について(63 件の回答)

本学では、文部科学省の認定を受けたプログラムを全学生に提供しています。データサイエンス・AI 活用能力は身につけていますか



問 20.その他、自由意見を記載をお願いします

- 社会人基本 挨拶～仕事の段取りの打ち合わせなどができない。職場での良識判断が不足している
- 大人に育てて欲しい。問題解決能力と忍耐力が欲しい。保育園児と大学生に共通する教育方法論をぜひ教官の方と話し合いたい。
- いつもお世話になっております。
今年からご入社いただいております〇〇さんも日々楽しみながら積極的に保育に取り組んでくださっています。
- 忍耐力、物事をプラスに肯定的に切り替えできる人
- こども、職員、保護者等、コミュニケーションのとれる人材でないと仕事になりません。
勉強も大切ですが、人の話に耳を傾けて聞く、素直に考え行動出来るようになれば成長はないと思います。今の学生は、自分本位であったり、嫌な事があると壁を作りこもる方向に向かいがちです。また、話した事を〇〇ハラスメントのような受け取りをされるかと思うと接するのが難しいです。社会生活が上手く送れるような講座もあるとよいのかと思います。本来は各家庭での育ちだとは思いますが、何とか1人前の人として社会に出て来てもらえるとうれしいです。他の専門学校からですが、採用した職員が、本当に職種不適合で退職しました。学校に入ったからと言って、誰でもかれでも資格を与えるような事はしないでほしいと思います。送り出す大学側の名にも影響が出ます。現場に出て仕事ができる方を有資格者としてほしいです。採用してからとても苦労したので、他の大学にもお願いしたいと思いました。勝手な事を言ってすみません。宜しくお願いします。
- AI に頼りすぎて自分で考える・計画を立てる事に不安が多い

- ・ 挨拶や返事などをすることが苦手の人もあるが、きちんとしてほしい。
- ・ 困った事があったり、分からない業務があれば、周りの人に聞く、相談するなどをしてほしい。
- 新社会人としてスタートするので、先輩保育者に対して遠慮がちになってしまうのは仕方ない。総じて2年目で能力が発揮できる人員配置等の環境を作ってあげられるところに重きを置いているので、みんな頑張ってもらいたい。
- 一般的に、採用後メンタル不調に陥る者や数年での退職を希望する者が増加傾向にあるため、これを低減させていきたいと考えている。
- 全て対応できるわけではないが、学生の考え方や、希望などの傾向を把握することができるとよい。
- 1年目、2年目、4年目、5年以上の職員が多数いますが、園児・保護者・園のために日々頑張ってくれています。今後とも宜しくお願いします。
- 学校現場です。学級の中で問題を見つけたら、職場の中に共有すること。周りが知らなかったという事例があったので、周りに相談することを心掛けてほしい。
- 初めての教員生活ですが、よく頑張っています。真面目に取り組んでいるとともに精神的にタフな面があるので、職場として有難い人材となっています。
- コミュニケーション能力、社会人とはということ、学校でも伝えていってもらいたい。
- やはり人柄が良い(心根が良い)と、良い仕事に繋がって行くと思います。素直で誠実な人を求めます。
- 人によって出来る・出来ないがあります。強く言えないので、出来ないところは何回も伝えていき、気付き前進していけるように心がけています。もっと保育の現場で働く新卒の方を増やせたらもう少し楽になるのかなぁと思います。
- 日々の教育有り難く思っております。幼児教育を目指す学生さん方は大変貴重な存在です。幼児施設も時代に合わせて対応していますが、オリエンテーションなど最初の挨拶時は、アクセサリー類(ピアスやネイル)は外しておいた方が、好感が持てます。
- お世話になっております。ご勤務頂いております卒業生様は、大変積極的にご活躍頂いております。今後も引き続き力を発揮頂きたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い致します。
- 学生時代に多様な体験をして、広い視野を持っている人、主体的に行動できる人材を必要としています。
- 地方(大分市・別府市以外)への就職も斡旋していただきたい。
- 保育サービス事業を展開する当法人においては、BtoC サービスを提供する際に必要なコミュニケーション能力が最も必要と考えています。したがって、そのような人材の育成を期待しています。
- 実習にぜひきてほしいです。

- パソコン操作等、すぐに対応できる方が多いと感じています。課題への積極的なかわりや解決、リーダーシップ等については、経験を重ねながら意識が高まっていくことを期待しています。

「別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー」に基づく雇用主アンケートの結果による DP 達成度評価

「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価実施要領

令和元年 6 月 12 日

短大企画運営会議

目的

別府大学短期大学部「アセスメント・ポリシー」では学修到達状況の評価指標の一つに「卒業生調査による「卒後評価」」が定められている。このアセスメント・ポリシーに基づき、「平成 30 年度卒業生・雇用主アンケート」の結果から DP 達成度を評価し、現在の教育・研究内容の課題を明らかにすることを目的とする。

実施方法

- (1) 「平成 30 年度卒業生・就職先アンケート」の結果を踏まえ、各学科の DP 3 領域 15 項目(教養 5 項目、専門 6 項目、汎用 4 項目)について、それぞれ 4 段階で到達度を評価し、その判断理由を 200 字程度で記入する。
- (2) 4段階の評価基準は次の通りとする。

評価	評価の基準
4	DP の達成度が 80%~100%
3	DP の達成度が 60%~80%
2	DP の達成度が 40%~60%
1	DP の達成度が 40%以下

- (3) DP 到達度の評価は、1 項目を 2 名以上の教員で評価することとし、また、出来るだけ多くの教員で分担して実施する。
- (4) 3 領域(教養, 専門, 汎用)毎に達成度及び前回評価結果からの改善についての総評を 200 字程度で記入する。
- (5) DP 到達度評価は評価用紙に記入する。各学科で評価結果をとりまとめて学科長が学長補佐(教務担当)に提出する(7 月 26 日(金)を〆切とする)。

評価結果の集約

各学科の DP 到達度評価結果は学長補佐(教務担当)が集約する。

評価結果の報告

全体の評価結果は学長に報告した後に短大企画運営会議で報告する。

別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー

平成30年9月12日

別府大学短期大学部学長裁定

1. 目的

別府大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、厳格で客観的・公正な成績評価を行ない、かつ、成績評価を含めた複数の方法で学生の学修到達状況を多角的・総合的に評価することによって、教育の質の向上及び教育の質の保証を行う。

2. 成績評価

別府大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、シラバスに明示した授業の到達目標及び評価方法並びに学科履修規程に明記された成績評価の区分によって、厳格で客観的・公正な成績評価を行う。

3. 成績評価を含めた多角的な学修到達状況の評価

別府大学短期大学部は、2. の成績評価に加え、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、各学科・課程等(学位又は教育プログラム策定単位)を基本に、その学修内容等に応じ、下記から選択した複数の方法で学生の学修到達状況や達成すべき質的水準を多角的・総合的・客観的に検証(測定)・評価する。このことによって、ディプロマ・ポリシーを起点としたPDCAサイクルを回し、授業内容、授業方法、評価基準、カリキュラム、入学者選抜などについて改善を図るとともに、ディプロマ・カリキュラム・アドミッションの各ポリシーについて必要な見直しを行う。さらに、学修成果(到達目標)の達成度評価を集約し、別府大学短期大学部全体の学修成果の達成状況を評価する。

① ポートフォリオ学修支援システムでの「学生による評価」

学生自身が、ポートフォリオ学修支援システムを利用して、学修成果(到達目標)の達成度を自己評価する。

② 口頭試問での「教員による評価」

卒業時に修得することが期待される学修成果(到達目標)を、発表または口頭試問によって評価する。

③ まとめ試験による「客観評価Ⅰ」

科目区分毎に「まとめ試験」による内部アセスメントテストを行い、修得することが期待される学修成果(到達目標)について達成度を確認する。

④ 外部テスト等による「客観評価Ⅱ」

客観的な評価を行うために、外部テストなどを利用した学修成果(到達目標)の達成状況を評価する。

- ⑤ 卒業生調査による「卒後評価」
別府大学短期大学部での教育への評価、職業生活や社会生活での必要な知識と能力、別府大学短期大学部への希望などについて、卒業生への調査を行うことで、学修成果(到達目標)の達成状況を評価する。
- ⑥ 地元社会・産業界からの「外部評価」
在学生においては、実習先訪問や実習連絡会議等を通して、学外実習先の企業や施設などでの学生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。卒業生においては、就職先の企業等での卒業生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。
- ⑦ 卒業時における学習成果達成度調査
卒業年次生を対象に、本学の DP(ディプロマ・ポリシー)に定める学修成果の目標に対する達成状況を調査する。
- ⑧ CP(カリキュラム・ポリシー)等に基づく教育課程プログラムの成果の検証
各科目や学科ごとの GP の分布、DP の達成状況、免許・資格の取得状況、就職状況等を調査し、その結果に基づき、教育課程の適切性を検証する。

令和 6 年 3 月 5 日改定

食物栄養科「雇用主アンケート」による DP 達成度評価

食物栄養科は、本学の定める課程を修了し、「教養」、「専門力」、「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に短期大学士(栄養学)の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

4段階の評価基準は次の通りとする。

評価	評価の基準
4	DP の達成度が 80%~100%
3	DP の達成度が 60%~80%
2	DP の達成度が 40%~60%
1	DP の達成度が 40%以下

問 7 は教養、問 8 は専門力、問 9、10 は汎用力の中の思考力、問 11、12 は汎用力の中の実行力、問 13、14 は汎用力の中の表現力、問 15、16 は汎用力の中の情報力について調査を行った。

1. 教養(人間性の形成に資する幅広い知識、技能)

・社会人として必要な常識・幅広い知識教養を身につけているか(問7)

評価(1~4)	理由
3	常識・幅広い知識教養を身につけているかの問いについて、4段階評価のうち、やや高いとされる3の評価が最も多く(53.3%)、また3及び4の肯定的な評価をしたのは全体の約7割であり、多くの雇用主から肯定的な評価を得ることができた。前年度の肯定的な評価は約6割であったが、今年度はそれを上回り、肯定的な評価がさらに増加した。また否定的な評価とされる2の評価(26.7%)もあり、一部の卒業生については教養が身につけていないとの評価であった。これらのことから、教養のDP達成度は評価を3とした。雇用主側が身につけてもらいたい能力(問17)として、「人間形成に必要な教養教育」が約3割であったことから、今後も教養科目、進路指導や就職ガイダンス等を通して、社会生活に必要な基本的な知識や技能が修得できるよう指導を強化していきたい。

2. 専門力(専門に関する基本的な知識、技能)

- ・大学の専門分野で身につけた基本的な知識・技能を活かすことができているか(問8)

評価(1～4)	理由
3	<p>専門分野で身につけた知識・技能の修得に関しては、4段階評価のうち、やや高いとされる3の評価が最も多く(66.7%)、また3及び4の肯定的な評価は全体の約8割であり、教養と同じく多くの雇用主から肯定的な評価を得ることができた。前年度は約6割であったことから、肯定的な評価が高くなっていた。また否定的な評価とされる2の評価が約2割であることから、教養と同じく一部の卒業生については専門力が身につけていないとの評価であったため、専門力の DP 達成度評価を3とした。今後も専門科目の講義や学内外での実習等を通して、専門に関する基本的な知識、技能が修得できるよう指導し、特に希望する就職先に合わせた指導を強化していきたい。</p>

3. 汎用力(社会で活躍できる汎用性のある能力)

(1)思考力

- ・論理的に考え分析する能力はあるか(問9)
- ・主体的に課題を発見し、解決に取り組む能力はあるか(問10)

(評価(1～4))	理由
3	<p>論理的に考え分析する能力に関しては、4段階評価のうち、やや高いとされる3の評価が最も多く(60.0%)、3及び4の肯定的な評価は全体の約8割であった。また主体的に課題を発見し、解決に取り組む能力に関しても、4段階評価のうち、やや高いとされる3の評価が最も多く(53.3%)、3及び4の肯定的な評価は全体の約7割であった。この2つの問いから、思考力の修得に関して雇用主の約7～8割が肯定的な評価であった。前年度の約6割であった結果と比較するとやや高い評価であったため、DP 達成度を3とした。雇用主側が身につけてもらいたい能力(問 17)として、「社会で活用できる汎用性のある能力」が約 5 割であったことから、今後も演習や実習・実験などの授業において思考力を高めるアクティブラーニング型の授業を実践していきたい。</p>

(2)実行力

- ・組織での活動においてリーダーシップを発揮することができるか(問11)
- ・組織において、他社や他部門と協調・協力して仕事を進めることができるか(問1

2)

(評価(1～4))	理由
3	リーダーシップを発揮しているかの問いでは、4段階評価のうち、やや高いとされる3の評価が最も多かったが(60.0%)、否定的な評価も約4割と多く、他の問いに比べて否定的な評価の割合が高かった。また、協調・協力して仕事を進めることができるかの問いでは、4段階評価のうち、やや高いとされる3の評価が最も多く(66.7%)、3及び4の評価は全体の約9割であり、肯定的な評価の割合が高かった。実行力の修得に関して、卒業生の多くはリーダーシップを発揮するまでにはやや至っていないが、他者と協調しながら協力して仕事を進めることができているとの高い評価であったことから、DP 達成度を3とした。今後、より高い実行力を身に付けるためにも、グループワークの多い授業等を通して、リーダーシップが発揮できるよう取り組んでいきたい。

(3)表現力

- ・場面にふさわしい言葉遣いやマナーを身につけているか(問13)
- ・自分の考えを的確に表現できるコミュニケーション力を身につけているか(問14)

(評価(1～4))	理由
4	言葉遣いやマナー、コミュニケーション力に関しては、どちらも4段階評価のうち、やや高いとされる3の評価が最も多く(66.7%)、3及び4の肯定的な評価が約9割であり、表現力に関しては多くの雇用主から高い評価を得ることができた。雇用主側が最も求める能力(問5)ではコミュニケーション力が最も高いことから、卒業生の多くが身につけているといえる。この2つの問いから、卒業生の表現力の修得に対する評価は大変高く、否定的な評価も約1割程度であったことから、DP 達成度を4とした。今後も表現力が高められよう、学内外の授業や課外活動においてプレゼンテーションの場や異年齢と関わる活動の場を取り入れていきたい。

(4)情報力

- ・社会の動向や問題に関心を持ち、必要な情報を収集することができるか(問15)
- ・基本的な情報処理能力(パソコンスキル等)を身につけているか(問16)

(評価(1～4))	理由
3	情報収集力に関しては、4段階評価のうち、やや高いとされる3の評価が最も多く(53.3%)、3及び4の肯定的な評価が約7割であった。また、情報処理能力に関しては、やや高いとされる3の評価が最も多く(73.3%)、3及び4の肯定的な評価が約9割であった。前年度に比べて肯定的な評価が大幅に改善されたことから、DP 達成度は3とした。情報力の修得に関しては、多くの卒業生が修得できているとの評価であったため、今後も情報リテラシーの科目や課題作成において、情報収集力や情報処理能力(パソコンスキル等)の強化を図っていきたい。

4. 総評

今回の調査結果より、卒業生の約7割が社会人として必要な教養や専門力を身につけていると評価され、また汎用力において表現力では約9割、思考力・実行力・情報力では約6～7割が身につけていると評価されたことから、概ね本学の教育の成果が表れているといえる。特に、他者との協調・協力性、社会人としてのマナーやコミュニケーション力、情報処理能力については高い評価を得ることができ、栄養士免許取得のための専門科目における実験・実習が多い点も評価に繋がっているといえる。

雇用主側が求める能力として、「社会で活用できる汎用性のある能力」が最も高いことから、思考力・実行力・表現力・情報力の修得を目指し、授業内容をより改善させていきたい。特に汎用力の中でも、評価の低かったリーダーシップを発揮する能力の修得に関しては、卒業後の勤続年数に従って身に付いていくことを期待するが、教育内容において今後さらなる改善策を検討していきたい。

初等教育科「雇用主アンケート」による DP 達成度評価

初等教育科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に、短期大学士(教育学)の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

4段階の評価基準は次の通りとする。

評価	評価の基準
4	DP の達成度が 80%~100%
3	DP の達成度が 60%~80%
2	DP の達成度が 40%~60%
1	DP の達成度が 40%以下

問 7 は教養、問 8 は専門力、問 9、10 は汎用力の中の思考力、問 11、12 は汎用力の中の実行力、問 13、14 は汎用力の中の表現力、問 15、16 は汎用力の中の情報力について調査を行った。

1. 教養(人間性の形成に資する幅広い知識、技能)

・社会人として必要な常識・幅広い知識教養を身につけているか(問7)

評価(1~4)	理由
3	教養に関する質問については 4 段階評価のうち、3 及び 4 の評価は全体の 71.5%で、7割を越える雇用主から肯定的な評価をいただいた。前年度は 67.7%であったので、3.8%の上昇が認められた。一方で、2 の評価は 25.4%、1 の評価は 3.2%であったことから昨年度の 2 及び 1 の評価の 28.6%を上回る結果となり、全体の約 3 割の雇用主は社会人として必要な常識・幅広い知識教養を十分に身につけていないと判断している状況が示されたため評価を3とした。学生の能力が二極化するなかで、社会的な常識・知識等の修得が難しい学生の個別化した支援を検討する必要があると考えられる。

2. 専門力(専門に関する基本的な知識、技能)

・大学の専門分野で身につけた基本的な知識・技能を活かすことができているか(問8)

評価(1~4)	理由
3	専門分野で身につけた知識・技能の修得に関しては、4 段階評価のうち、やや高いとされる3の評価が最も多く(49.2%)、また 3 及び 4 の評価をしたのは全体の 79.4%であり、雇用主の約 8 割から肯定的な

	<p>評価をいただいた。前年度は約 7 割であったことから、肯定的な評価が小幅であるが上昇した。一方で、一部の卒業生については専門力が身につけていないとの評価であったため、専門力の DP 達成度評価を 3 とした。本学卒業生への専門力の修得について一定の評価を得ているが、2年間という短い期間であることの理解を示しながらも知識・技能のより一層の研鑽についての要望に加え、主体的な活動への参加も求められていたことから、授業をはじめ学校行事、研究会活動、ボランティア活動等の充実を図る必要がある。</p>
--	--

3. 汎用力(社会で活躍できる汎用性のある能力)

(1)思考力

- ・論理的に考え分析する能力はあるか(問9)
- ・主体的に課題を発見し、解決に取り組む能力はあるか(問10)

(評価(1～4))	理由
3	<p>論理的に考え分析する能力に関しては、4 段階評価のうち、やや高いとされる 3 の評価が最も多く(58.7%)、4 の評価は 12.7%であった。また、主体的に課題を発見し、解決に取り組む能力に関しても、4 段階評価のうち、やや高いとされる 3 の評価が最も多く(47.6%)、4 の評価は 15.9%であった。この 2 つの問いから、思考力の修得に関して雇用主の約 6 割が肯定的な評価であった。前年度の約 5 割とほぼ変わらない水準のため、DP 達成度を 3 とした。企業側が身につけてもらいたい能力(問 17)として、「社会で活用できる汎用性のある能力」が約 6 割であったことから、在学中から「社会に出てからも主体的に学び続ける意欲や姿勢」が求められていることを伝え、指導する必要があると考える。</p>

(2)実行力

- ・組織での活動においてリーダーシップを発揮することができるか(問11)
- ・組織において、他社や他部門と協調・協力して仕事を進めることができるか(問12)

2)

(評価(1～4))	理由
3	<p>リーダーシップに関する問いでは、4 段階評価のうち、3 の評価が 45.2%であった。一方で 1 及び2の否定的な評価も 43.5%であることから 2 極化の傾向がうかがえた。また、協調・協力して仕事を進める</p>

	<p>ことができるかの問いでは、4段階評価のうち、やや高いとされる3の評価が最も多く(58.7%)、3及び4の評価は全体の82.5%であり、約9割の雇用主から肯定的な評価が得られた。他者と協調・協力して物事をやり遂げることが得意なのは本学科の卒業生および学生の良さであり、大切にしたい部分でもある。今後も授業内での演習、グループ活動を通して学生の持つ良い部分をさらに伸ばしていきたい。</p>
--	--

(3)表現力

- ・場面にふさわしい言葉遣いやマナーを身につけているか(問13)
- ・自分の考えを的確に表現できるコミュニケーション力を身につけているか(問14)

(評価(1～4))	理由
3	<p>言葉遣いやマナーに関しては、4段階評価のうち、3及び4の評価が全体の79.3%であった。またコミュニケーション力に関しては、4段階のうち、やや高いとされる3の評価が最も多く(42.9%)、3及び4の評価が全体の68.3%であった。否定的な評価は約3割程度であったことから、DP達成度を3とした。自由記述でもコミュニケーション力を重要視している記述が散見されることから、引き続き実習指導や演習授業を通して適切なマナーやコミュニケーション能力を身につける指導をしていきたい。</p>

(4)情報力

- ・社会の動向や問題に関心を持ち、必要な情報を収集することができるか(問15)
- ・基本的な情報処理能力(パソコンスキル等)を身につけているか(問16)

(評価(1～4))	理由
3	<p>情報収集力に関しては、4段階評価のうち、3および4の評価が49.2%であった。また、情報処理能力に関しては、4段階評価のうち、3及び4の評価が83.8%であった。前年度(R6年度)の肯定的な評価(評価3・4)は、情報収集力が49.1%、情報処理能力が79.0%で、ほぼ横ばいである。パソコンスキルが上昇する一方で、社会問題への関心や情報の収集に関しては、約5割の卒業生が修得できていないことから、今後は情報リテラシー教育をはじめとする関連科目やレポート・指導案作成、実習指導において、情報収集力や情報処理能力の強化を図っていきたい。</p>

4. 総評

今回の調査結果から、約7割の卒業生が社会人として必要な教養や専門力をおおむね身につけていることがわかった。特に協調・協力して仕事をやり遂げる実行力やパソコンスキル等の情報処理能力は高い評価を得ており、本学科の教育の成果が表れていることが示された。一方で、全体の約3割の雇用主は社会人として必要な常識・幅広い知識教養を十分に身につけていないと判断している状況が示された。社会的な常識・知識等の修得が難しい学生の個別化した支援において、クラス担任をはじめとする学科教員の丁寧な個別指導の成果が得られるようにさらなる改善策を検討する必要があるといえる。